

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click **Display Selected**.
- To print/save clean copies of selected records from browser click **Print/Save Selected**.
- To have records sent as hardcopy or via email, click **Send Results**.

✓ Select All

✗ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Format  
Display Selected Free

Dialog eLink: Order file history

- 3/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2009 Thomson Reuters. All rts. reserv.

0003725852

WPI Acc no: 1986-172011/198627

XRAM Acc no: C1986-073798

XRPX Acc No: N1986-128427

Deodorant compsn. used to remove ammonia smell - comprises extract of oxalis, sasanqua, hemlock-spruce, crape myrtle, nandin, chestnut, pine, and/or ginkgo with hydrophilic solvent

Patent Assignee: MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD (MATW)

Patent Family ( 2 patents, 1 &amp; countries )

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Type
JP 61103447	A	19860521	JP 1984226202	A	19841025	198627	B
JP 1990025623	B	19900605	JP 1984226202	A	19841025	199026	E

Priority Applications (no., kind, date): JP 1984226202 A 19841025

Patent Details

Patent Number	Kind	Lan	Pgs	Draw	Filing Notes
JP 61103447	A	JA	3	0	

## Alerting Abstract JP A

Compsn. comprises extract of oxalis, sasanqua, hemlock-spruce, crape myrtle, nandin, chestnut, pine, ginkgo, with hydrophilic solvent and/or water. The hydrophilic solvent includes alcohols and ketone, partic. a mixture of methanol and water. The present compsn. is made into use in a concn. of 0.1 to 1% in water. The extraction is conducted, e.g. at 80 deg.C for 1 day.

Title Terms /Index Terms/Additional Words: DEODORISE; COMPOSITION; REMOVE; AMMONIA; SMELL; COMPRISE; EXTRACT; HEMLOCK; SPRUCE; CHESTNUT; PINE; HYDROPHILIC; SOLVENT

## Class Codes

International Patent Classification

IPC	Class Level	Scope	Position	Status	Version Date
A61L-0009/01	A	I	F	R	20060101
A61L-0009/01	C	I	F	R	20060101

File Segment: CPI; EngPI

DWPI Class: D22; P34

Manual Codes (CPI/A-N): D09-B

Derwent WPI (Dialogk File 352): (c) 2009 Thomson Reuters. All rights reserved.

✓ Select All

✗ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format  
Free

© 2009 Dialog LLC All Rights Reserved

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭61-103447

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

A 61 L 9/01

識別記号

庁内整理番号

6779-4C

⑭ 公開 昭和61年(1986)5月21日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 消臭剤

⑯ 特 願 昭59-226202

⑰ 出 願 昭59(1984)10月25日

⑱ 発 明 者	才 原	康 弘	門真市大字門真1048番地	松下電工株式会社内
⑱ 発 明 者	伊 達	晴 行	門真市大字門真1048番地	松下電工株式会社内
⑱ 発 明 者	山 内	俊 幸	門真市大字門真1048番地	松下電工株式会社内
⑱ 発 明 者	長 田	光 司	門真市大字門真1048番地	松下電工株式会社内
⑱ 発 明 者	小 池	史 郎	門真市大字門真1048番地	松下電工株式会社内
⑲ 出 願 人	松下電工株式会社		門真市大字門真1048番地	
⑳ 代 理 人	弁理士 竹元 敏丸		外 1 名	

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

消 臭 剤

## 2. 特許請求の範囲

(1) カタバミ、サザンカ、ツガ、サルスベリ、ナンテ、クリ、サネカズラ、ミズメ、ニシキマツ、イチヨウからなる群の中の植物体より、水あるいは親水性有機溶媒単独で、あるいはそれらを組み合わせた溶媒で抽出したものであることを特徴とする消臭剤。

(2) 特許請求の範囲第一項記載の消臭剤を単独あるいは複数の組み合わせで使用することを特徴とする消臭剤。

## 3. 発明の詳細な説明

## 〔技術分野〕

この発明は、生活環境汚染要因の一つである臭気の除去に関わる技術分野である。

## 〔背景技術〕

近年生活環境の見直しが進むにつれ、生活環境

における臭気も、生活環境汚染要因の1つとしてその除去に關わる技術が注目されてきている。臭気を除去するには、芳香性物質のマスキング効果による感覚的消臭法、換気や臭気物質の吸収吸着による物理的消臭法、中和、付加、縮合、酸化等の化学反応により臭気物質を無臭化する化学的消臭法及び、臭気物質を産生する微生物を滅殺し臭気の発生を阻止する生物的消臭法がある。

感覚的消臭法は、芳香性物質により臭気を除去し得ても、臭気物質を除去し得ず、又芳香といえども、個人の好みによっては不快と感じる場合があるという欠点を有する。

物理的消臭法は、古くから汎用されているが、換気では装置化が必要であること、吸収吸着剤では、吸収吸着された臭気物質が、温度上昇によって再放出されるという欠点を有する。

## 〔発明の目的〕

この発明は、人間に不快さを生じせしめる臭気の1つであるアンモニア臭を効果的に除去する性能を有する消臭剤を提供することをその目的とす

るものである。

〔発明の開示〕

この発明は、カタバミ、サザンカ、ツガ、サルスベリ、ナンテン、クリ、サネカズラ、ミズメ、ニシキマツ、イチヨウから成る群の中の植物体より、水あるいは親水性有機溶媒単独で、あるいはそれらを組み合わせた溶剤で抽出を行ない、抽出物あるいはそれらの抽出物を組み合わせたものが特にアンモニアに対して消臭効果を有する消臭剤であることを特徴とするものである。

植物体の使用部位は特に限定されないが、葉、樹皮、心材、果実が適当である。

抽出時に使用する溶媒は、アルコール類、ケトン類といった親水性有機溶媒及び水単独で、あるいはそれらの混合溶媒であればよいが水とメタノールの混合溶媒が望ましい。

消臭剤として使用する際には、液体、個体状のいずれの形状で使用するもよく、特に限定されるものではないが、たとえば水溶液として使用する場合は、0.1～1%の濃度範囲で使用するればよい。

(3)

量添加後、直ちに密栓し振した後、ヘッドスペースガスをとり、ガスを水に溶解しそのアンモニア量をネスラー法によって比色定量し、消臭剤無添加のものに対しての臭気残存率を求め、臭気除去率を算出した。その結果を第2表に示す。

つぎに実施例を挙げて説明する。

〔実施例1～10〕

カタバミ、サザンカ、ツガ、サルスベリ、ナンテン、クリ、サネカズラ、ミズメ、ニシキマツ、イチヨウの葉を採取し、おのおのの葉を粉碎後、水・メタノール混合溶媒で常温で1晩、80℃で5時間抽出し、抽出液を濃縮し粉末状の抽出物をおのおのの植物について得た。抽出物を各々1%の溶液と調整し、消臭剤とした。

〔実施例11〕

カタバミ、サザンカ、ツガの1%溶液を各々同部づつ混合し、消臭剤とした。

以上の操作によって得られた消臭剤のアンモニアに対する消臭評価を官能法及び定量法によって行なった。

官能法は、希薄アンモニア溶液に消臭剤を一定量添加した試料の臭気強度を10人のパネラーによって6段階で評価した。その結果を第1表に示す。

定量法は、希薄アンモニア溶液に消臭剤を一定

(4)

第1表

		評価値
実施例 1	カタバミ	0.6
2	サザンカ	0.6
3	ツガ	1.0
4	サルスベリ	1.2
5	ナンテン	1.3
6	クリ	1.6
7	サネカズラ	1.7
8	ミズメ	1.8
9	ニシキマツ	1.9
10	イチヨウ	2.1
比較例	ブランク	4.4

第2表

		除去率(%)
実施例 1	カタバミ	90
2	サザンカ	85
3	ツガ	82
4	サルスベリ	79
5	ナンテン	75
6	クリ	74
7	サネカズラ	70
8	ミズメ	69
9	ニシキマツ	69
10	イチヨウ	68
11	カタバミ：サザンカ：ツガ＝1：1：1	96

(5)

(6)

註 1. 消臭効力官能評価は、6段階臭気強度法を用いた。6段階臭気強度表示法

臭 気 強 度	内 容
0	無 臭
1	非常に かすか
2	かすか
3	容易に感じる
4	強 い
5	非常に 強 い

註 2. 比較例として消臭剤を添加しない溶液を同量加えたものをブランクとして示した。

註 3. 評価値は10人のパネラーの評価の平均値を示す。

〔 発 明 の 効 果 〕

この発明は、植物から得られる抽出成分を消臭剤とすることを特徴とするもので、特にアンモニア臭を除去する効果がある。

( 7 )